

至言

如是我聞

朝永振一郎 少かりし時

父の曰く

“振よ、爾は敏ならず、夢々哲人たらんと目指すなかれ。

しかし、理学を志せ。うむことなく努むれば、為す所あるべし。

YY 独白

ノーベル物理学賞を受ける朝永先生が頭が悪いといふのであれば、一体全体朝永先生のご父君はどの位偉かった（頭がよかった）のか。凡俗には何とも恐れ入るだけである。

尚この朝永三十郎先生の著「近世における「我」の自覺史」は旧制高校生の必読の書の一つとされてゐた。哲人西田幾多郎の最も信頼した人であった。

名言

Niels Bohr (07-10 1885 ——— 18-11 1962)の言葉 (抄)

((YY が CERN 滞在中に入手))

**BOHR ' S FAVORITE DEFINITION OF A
“GREAT TRUTH” :**

**“A TRUE WHOSE OPPOSITE IS ALSO
A GREAT TRUTH”**

THE CENTRAL IDEA OF THE INSTITUTE:

“NO PROGRES WITHOUT A PARADOX”

**OPEN LETTER TO THE UNITED NATIONS (9
JUNE 1950)**

**“ THE GOAL TO BE PUT BEFORE
EVERYTHING ELSE IS AN OPEN
WORLD WHERE EACH NATION CAN
ASSERT ITSELF SOLELY BY THE**

**EXTENT TO WHICH IT CAN
CONTRIBUTE TO THE COMMON
CULTURE AND HELP OTHERS
WITH EXPERIENCE AND
RESOURCES”**

RECEIP OF THE ORDER OF THE ELEPHANT:

“CONTRARIA SUNT COMPLEMENTA”

04 11 10

宣なるかな ((小話))

CERN Theory Division at Copenhagen に居て常時 Niels Bohr の語る言葉（物理に限らず）に耳を澄まして来たウラジミールの云ふには：

NIELS BOHR はゼミナール（や討論・會話）において、
最も重要な事を、事更小さな〔或は低かったかな〕聲で云
ふ。

YY 日

Niels (Henrik David) Bohr (07.10.1885~18.11.1962)

(Nobel Prize of Phys., 1922)。云ふ迄もなく Bohr' s atomic model の提唱者、量子論・量子力学の“父”。重要な事を低い声で言ふとは常人と逆。

Niels Bohr の聲咳に接して来たこの男、full name は Vladimir Glaser。彼について詳しくは列伝(抄)を。

N. Bohr の直接・間接の弟子は多数ある。その中でも有名なのは：

Paul Dirac	Britain
Rudolf Peierls	
E.J. Williams	
Carl Jacobsen	Denmark
Christian Møller	
Hendrik Casimir	Netherlands
Samuel Goudsmit	
Hans Kramers	
Werner Heisenberg	Germany
Pascual Jordan	
Lise Meitner	
Léon Rosenfeld	Belgium
Wolfgang Pauli	Switzerland
Vladimir Alexandrovitch Fock	U.S.S.R
Goerge Gamow	
Lev Landau	
Oskar Klein	Sweden
Yoshio Nishina	Japan
John Slater	U.S.A
L.H. Thomas	

正に、煌星の如き弟子達である。 N.Bohr の偉大さは、彼自身の達成した物理だけでなく、これら一流の物理屋を育てたことでも偉業と云はねばならない。二十世紀の巨人である。

更に晩年の「弟子」として、Y は、上のリストに N.Bohr の
息子 Aage Bohr
と Ben Mottelson
を追加したくなって居る….

日本で、偉大な物理学者であるばかりで無く、多くのよい弟子を育てたのは、小谷正男先生と朝永振一郎先生であると、Y は考へる…。 日本の中でこの2人の物理学者は卓絶の存在であった。

VIKI の言葉 ((小話))

Victor F. Weisskopf:

“The best physicists are those who made a lot of mistakes.”
(~1960, at CERN)

YY 曰 :

My paraphrase of Viki' s saying is as follows:

“After so many mistakes and/or failures, one can
achieve a great contribution to physics.”

07 09 27

天国の Pauli (小話)

Pauli 死して、天国の門に至る。 門衛・大天使ミカエル
(?)に従ひて、神に謁見す。 神曰く「特に一門差許す」。 Pauli
応へて曰く「願くば、宇宙方程式を知らん」。 神（黒）板上に式を
書下し給ふ。 Pauli（縦に首を振りつつ）是を見、（神の）手の終
るを待て曰く「是誤矣」。

是誤矣か？
いえかもしれぬ

YY 曰

これは CERN Th. Div. にゐたとき、Viki から聞いた小話である。
Pauli そっくりのドイツ語で云はないと、本当の味が出ない。

セミナーでの Pauli は、首を縦に振り乍ら、話を聞いてみた。 首
ふりが止ったら、ゼミの speaker にとって要注意の印で、speaker は話をやめ
て、Pauli の顔をみる。 気の小さい若者ならオロオロする。 Pauli の首ふり
が縦から横方向に急変したら、Pauli の反対の意志表明であった。 Pauli の大
声の反論が飛び出るのは必須と speaker は思った方がよい。

かうした Pauli の習性を知らぬ者にはピンと来ない小話かも知れぬ。

それに Pauli の死去する少し前から、Heisenberg は宇宙方程式を提
唱し、これによって素粒子物理を終らせると豪語してみた。 1962 年 ICHEP
で Marshak 迄、Heisenberg の idea に魅せられ、「Heisenberg は、 Λ の質量
の精密決定以前に、 Λ 質量の数値を彼の方程式から予言した」ことを強調した。
Pauli は、この Heisenberg の idea と宇宙方程式を信することができなかった。
Heisenberg は 1920' 末以来の盟友 Pauli のこの仕事への協力を期待してゐて、

Pauli にしきりとこれはいい理論だらうともちかける。しかし Pauli には、今度の Heisenberg の宇宙方程式に賛同し難く、反論（と云ふより撃破）したかったが、うまく論理的に Heisenberg にこの新説を撤回させられぬまま、Pauli は死去した。Pauli は之を無念とした。

かうした背景が上のジョークを成立させてゐるのである。この話の作者は誰か知らぬ。話の面白さが先に立ってうっかり Viki に聞くのを忘れた。Pauli を知る（ユダヤ系の）理論物理学者にはほゞ周知のジョークの様であった。Viki 以外の人からも聞いたからだ。Viki は、US の物理屋もきてゐたとき、英語でもこの小話を披露してくれた。勿論ドイツ語でないと味が出ないとの但し書つきで。上の小話の最後は、英語なら

That's wrong!

である。Pauli がゼミの聞き手の時、屢々発する「文」であつた。

現代日本語版

Pauli は死去して天国へ往つた。天国の門番である大天使ミカエル(?)に迎へられ、神の御前へと案内される。神は宣う。

「Pauli よ、特に一つだけ望みをかなへてやろう」Pauli は謝して問ふ。 「宇宙方程式を知りたいのです」神はよからうとして、式をサラサうと書き流される。Pauli は(例の通り)頭を縦に振りつつ、彼の目は式を追ふ。神が式を書き終へられるや、Pauli は首ふりを止めて直ちに云ふ。 「これは間違ひだ!」

名答 ((小話))

Bob、かつて来訪せし US-Senate の問：

本研究所は US の defence にいかなる利をもたらさんや
に答へて曰く

“本研究所、US の defence に直ちにかかはる所なし。されど、本研究所は US をして defence に値する国とならしむるに資するところ甚だ大なり”

YY 曰

Bob、もっと正式には Robert R. Wilson、もと Laurence (Berkeley) の弟子。 Cornell に落ちつき、次々と大きな e-synchrotron を造る。 AG principle の proposal を聞き、WF を AG 方式に急遽変更し、workable e-AG synchrotron (実用加速器) を造った。 実験に使へる AG synchrotron としては、世界初。

その後、Fermilab の初代所長となり、500GeV の AG 型 proton synchrotron を造った。

上記の文に、研究所とあるのは Fermilab のことである。 この Bob の答、よほど気に召してゐるらしく、Bob は coffee break や dinner party、ICFA meeting、等の折、何度も聞かされた。

この US-Senate は defence を “専門” としてゐた。

07 09 27

アメリカ（のマスコミ）の漫画から(1950 中葉)
(小話)

アメリカとソ連が夫々に打上げた二つの人工衛星がニアミスする位に近づいた。そして互いに云ふ。

「おう、こゝでならドイツ語で喋り合へるな」

YY日

第二次大戦後、米ソは軍拡同様宇宙でも競ひ合った。戦後ドイツの夫々の占領地を中心に、米ソ共ナチ治下の V2 の開発・製作チームを奪ひあひ、これらが米ソ夫々のスペースリサーチの核となった。米の占領地へは von Braun が自ら出むき、ロケットの大型化、人工衛星の製作打ち上げやスペースでの生活環境の整備、エトセトラ(space science)の中心人物となる。ソ連でも同様。

かうして米ソのロケット大型化、ミサイルに搭載できる原・水爆の増加、多弾頭化、etc.と米ソの競争。人工衛星の初打上では米がソ連に劣れをとる。ミサイル・ギャップ、スペース・サイエンス・ギャップが騒しくなるのも 1954/5 の頃だったかと思ふ。この頃、上の漫画の会話が USA の新聞（か週刊紙）に出たのである。

07 09 27

国際連盟 (League of Nations 今の国連の前のもの)
華かなり頃の Genève では(小話)

ドイツ人が1人でゐるときはニコニコ、

2人になると歌を歌ふ

3人集ると行進を始める

(問)ワイフは何人もゐるとよい? (答)3人がいいな、

家を守らせるのに日本人の妻を

料理のためには支那人の妻を

パーティ同伴にはフランスの妻を。

YY日

前者：ナチス登場直前のヨーロッパの連中のドイツ観を表はすものだ。ドイツ人が集ると行進するなんてナチの台頭を予見していたみたい。

後者：男女同権が当然のこの頃、ご婦人は柳眉を逆立てよう。その位ですむならよしとするか。昭和初期まで日本人の女性は、夫に従順で貞淑この上もないといふのが欧米での定評であった。

今でもモスLEMは4人まで妻をもてる。但し公平に扱はねばならぬ。これはコーランにも明記してある。

話を約半世紀後のことに移さう。

Abdus Salam(本人に聞いたら、この名は神のしもべの意味だとか)

がノーベル賞の授賞式に出る時、ウィフを2人同伴すると伝へ、ノーベル賞の委員共やスウェーデン政府の儀典官を慌てさせた。先例がなかったし、Salamの要求に見合う法令もないからだ。実際、Salamはイギリス人とイタリア人のウィフを伴ったとか。スウェーデン側は何とか対処したが、大童だったといふ。Nobel Prize Committee(Physics)のメンバーの1人(J. Nilsson, IUPAPのS.G. でもあった)から聞いたことだ。

因みに、日本が「満州国」をめぐって国際連盟*から離脱したとき、Genèveにあったいくつかの日本料理店はボイコットに会って、皆店終いしたといふ。Yが1958-61の間CERNにstayしていたときもGenèveに日本レストランはなかった。

注

* その本部はGenèveのLeman湖畔にあった。今は国連の欧州本部となって居り、日本はここへ大使(Genève常駐)を派遣してゐる。

「口さいれんあ」) 新タイトルにす (080622)
海への蛇足 ((1ペ-2月))

第一次大戦終了後、アメリカ大統領ウィルソンの
強かなリ-ダーシップの下、国際連盟が発足し、
その本部は永世中立国のスイスはジュネーヴ
に置かれた。所である。第一次世界大戦
に勝利し、
伝 統的なモンロー主義の台頭した
が母は

戦後の最上院は、アメリカの国際連盟参加
を否決した。新興国、(17~19世紀の帝国主義・
植民地獲得競争時代のヨーロッパの強大国から
みると、アメリカ合衆国は後発の成り上り者で
大国とみなされるようになるのは第一次大戦からで
あった) はこの様に (以下次ページ)

United States
アメリカ合衆国、ユタズニの國有地：アメリカ人はしばしばUSといふ

エピソード (エッセイ) ～early 1960's CERN にいたときにきいた：～

★ フランス人からきいたこと

フランス人は法律で禁止されてゐないことは何でもやるが、*)
ドイツ人は法律の許すことしかない。

★ イタリアの友人の言

イタリア人が一人でゐると歌ふ。二人でゐるときは… (忘れた)。イタリア人が三人集まると、いかに上手に税金のがれをしたかを自慢しあふ。

交通違反でポリツァイにつかまったとき (driving してゐるとき) イタリアのドライバーは交通標識 (又は信号) は見てみましたが、貴方がおられるのに気がつきませんでした (或はおられるのを見てみませんでした) と云ふ。

★ フランス人の曰く

ドイツ人の家の台所や料理道具 (鍋) はきれいでピカピカだが、料理をつくらないし、つくってもまづい。フランス人のはとてもきたないが、素敵にうまい料理をつくる。

オランダ人はきれい好きで家の中をピカピカにみがき上げるだけでなく、入口のドアの取手までもピカピカにみがいてある。

*) さう云へば、1950 末～1960 初めころパリの古い建物 (の外壁) のあちこちに「18**年の法律*條によりここは立小便厳禁とか落書禁止」と大書してあったのを思ひ出す。